

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立第三中学校

1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

昨年度の結果では全教科において、「思考力、判断力、表現力」の観点で、全国平均を下回る結果となりました。

学校全体の学力向上をめざす研究テーマとして、「グループ活動を取り入れた対話的な授業展開で、思考力・判断力・表現力を高める」、「情報活用能力の向上を視野にICT機器を活用する」ことを目標としました。その結果、多くの場面で主体的にICT機器を活用した調べ学習やプレゼンテーションが実施され、学習方法の幅を飛躍的に広げることができました。

国語を中心に、定期考査や授業の中で活用問題を用いたグループ活動を取り入れることで「思考力、判断力、表現力」の向上を図ってきました。その結果、令和6年度の調査においては「思考力、判断力、表現力」の観点で府平均を上回る項目もありました。しかしながら、グループ活動を充実させることで基礎を習得する機会が減少することになり、「知識及び技能」の観点で全国平均を下回る項目が目立ちました。

2. 教科における成果と課題について

【成果】

○国語では、グループ活動やペア活動という形態をとり、学び合う中で活用問題にふれながら「思考力、判断力、表現力」を伸ばす取組みを続けてきました。その結果、「話すこと・聞くこと」の項目、「読むこと」の項目、「書くこと」の項目において、全国平均を上回る結果となりました。観点に関わらずすべての問題において、無回答率が全国平均よりも低く、点数にはつながらない項目もあるものの、あきらめず粘り強く問題に取り組もうとする姿勢が見られました。

○数学では、「データの活用」の領域の、特に四分位範囲を比較する問題でデータの分布を正しく読み取ることができており、大きく全国平均を上回っています。確率を求める問題や最頻値を求める問題などの基本的な問題については正答率が高いです。

【課題】

国語では、「知識及び技能」の観点の問題の正答率が全体的に低く、課題が見られました。特に、情報と情報の関係を捉える項目や、文脈に即して正しく漢字を書く項目、行書の特徴を捉える項目の正答率が大幅に低く、活用問題の充実や定期的な漢字テストの実施などの改善が必要であると考えます。

数学では、全体を通して、数学的な表現を用いての「説明」や「証明」を必要とする部

分の正答率が低かったです。苦手意識を持ちやすい分野であるので、基本的な問題を繰り返し解き、設問に慣れることのほか、身の回りの事象を数学的にとらえる習慣を身につけていく必要があると考えます。また「数と式」「図形」「関数」の領域における基礎的な知識・技能の定着にも課題があるので、基礎・基本の反復した学習が必要だと考えます。

【別紙様式】

3. 児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	45.1	75.0	76.1
1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	59.8	73.0	68.8
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	66.4	78.3	76.2
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	65.6	86.9	86.1
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	62.3	81.6	77.9

- 総合的な学習の時間にSDGsについての取組みをする中で、“自分たちにできることは何か”というテーマで考える機会が何度もありました。また、自分の街をPRするプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーション能力を高める取組みとして発表する機会もありました。このことから、必然的に地域の在り方に着目することとなり、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目の向上につながったと考えられます。今後も地域学習や保育実習を通じて意識向上を図りたいです。
- 英語の授業の中では即興でスピーチをするパフォーマンステストが実施されています。そのことが「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」の項目において、生徒の肯定感に繋がっていると考えられます。今後も引き続き授業の中で実施していきたいです。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目の2点において、どちらも肯定的な回答が昨年度の数値を大きく上回り、全国平均も上回る結果となりました。学力向上を図る学校としての研究テーマとしてここ数年は、「ユニバーサルデザインを取り入れた探究的な学びの実現、情報活用能力を育み、対話を軸とした学力向上」をめざす授業づくりを全教科で進めてきました。生徒の中に少しずつではあるがその意識が根付き、生徒間でも学び合いが定着しつつある結果と考えます。今後は更にレベルの高い課題であっても生徒たちが臆さず挑めるよう、また、授業の中でわからないところがあっても、生徒同士で遠慮なくきけるような関係づくりができるよう、引き続き研究を進めたいです。
- 日々の授業ではふりかえる時間を確保する授業づくりを継続しています。生徒が粘り強く課題と向き合いその変容がわかるような授業を展開するため、ICTを活用したふりかえりの工夫をしたり、生徒が自らの学びをふりかえる機会を設けるためにOPPシート(One Page Portfolioシート)を活用した授業展開を考えたりしています。これらの取組みが「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目において肯定的回答が多かった理由だと考えます。今後も教科間で授業の工夫を共有し、向上を図りたいです。